

英語リスニングにおける学習者が留意すべき 音変化と「類音語」の克服に向けた指導

小林 敏彦

要約

一般に英語学習者は、英語の音が聞き取れない、他の語彙と聞き違える、聞き取れても意味がわからないの3つの問題を抱えている。1つ目と2つ目の問題は音声認識上の問題であり、3つ目は語彙力の不足または記憶のラプス等による内容理解の問題である。音声認識の問題は感覚器官の機能に関する物理的困難であるのに対して、内容理解の問題は聴覚器官で認識された後の言語処理に関する心理的困難である。本稿では、まずは、リスニング力とは何かを簡潔に整理し学習者が習得すべき技能を明確にする。次に、聞き取りを困難にしている音変化などの音声認識上の諸問題を解明する。さらに、調査で明らかになった学習者が聞き分けに難を感じる「類音語」を整理し提示する。最後に、音変化と類音語の克服に向けた解決策として有効な授業または学習者の独習で実行可能な聞き取り、音読、反復、暗唱用例文と音声認識用のタスクを提示する。

1 : はじめに

英語学習の中でリスニングは最大の難関である。聞き取れない。聞き取れても語彙力が不足したり背景知識が足りずに理解できないという問題を抱えている学習者は多い。Kobayashi (1996) が267人の大学生を対象に行った調査でも全体の23.1パーセントにあたる120人が英語学習上リスニングが4技能の中でもっとも習得が困難であると感じていると回答している。

英語を聞いて理解するには、まず音声を正しく聞き取れ、聞き取れた語の語順を理解でき、そしてバラバラに聞こえてくる個々の単語やフレーズを意味あるグループにまとめ語順や語と語との関係を把握し、関連知識を総動員して全体のメッセージを正しく把握できなければならない。すなわち、音声を聞き取る認識力、語間の関係を理解できる文法力、さらに個々の単語の意味と関連した知識の3つを合わせた総体がリスニング力である。

学習者には具体的にはどんな困難が立ちだかっているのだろうか。この説明には、リスニングを音声の認識と内容の把握に分けて論じなければならない。音声の認識(listening perception)を難解にするものとして、外的要因として雑音、音声が不鮮明、音量が小さいなどの音響環境の悪さと発音が聞き取れない、単語・句・節・文の区切りが認識できない、短縮された音が聞き取れない、連結した音が聞き取れない、前後の音が同化した音が聞き取れない、弱く発音されたり脱落した音を認識できないなどの聴覚器官の段階での難点が挙げられる。また、聞き取れ優位脳のウエルニッケ領域にまで伝達された音でさえも、語彙力と背景知識の不足、また語彙も背景知識があってもメッセージの内容が難解であったり話者の論理構成が不明瞭であったりすると、極めて奇異な場合には意味の理解は困難になる。

ゆえに、リスニングの学習では、音声認識という物理現象と内容理解という心理現象の二つから成るという事実をまずしっかりと認識し、いま行っている学習内容が、どちらの現象と関連し、どの技能の向上に繋がるものであるかを学習者自身が認識しておくことが望ましい。リスニングの学習だからといって、クローズテストに終始していても無意味である。反対に、多義選択問題に終始し内容の理解に努めるが、自然な発話における音変化のメカニズムを整理し理解するよう

に努めなければ特定の音を聞き取れるようにはならないだろう。

音声認識は、物を見るために目蓋を開ける行為と同じく、あくまでも内容把握の前段階であり、特定の音声を取り取ただけで一喜一憂しているようでは習得に結び付かない。音声は人体に例えると細胞であり、集まって組織となり、組織が集まって器官となり人体を形成する。それはいわば、人体を文章(全体のメッセージ)とするならば、以下のパラレルな関係が成り立つ。

1. 細胞 ⇒ 2. 組織 ⇒ 3. 器官(臓器) ⇒ 4. 肢体 ⇒ 5. 個体
 1. 音素 ⇒ 2. 形態素 ⇒ 3. 語句・節・文 ⇒ 4. 段落 ⇒ 5. 文章

特定の個人を認識するように、ある一塊のメッセージである文章を理解するためには、個々の音を聞き取りのレベルで聞き取り、それが大きな単位になるに連れて、意味と論理の世界が加わり、複雑化し大きなメッセージを形成するのである。学習者はこの最終プロダクトであるメッセージの理解、すなわち内容把握に至るプロセスを日本語に訳すことなく瞬時に解読する技能が求められる。なお、上記で語句、節、文を同列に扱ったのは会話においては、1回のターンにおいて主部と述部(主語と動詞)からなる完全な文の形ではなく、単語、句、節単位の発話が多いためである。

2：リスニング力の定義とプロセス

リスニングの指導を適切に行うためには、まずは学習者に具体的にリスニング力の何を身に付けさせるべきであるかを明確に教師は認識していなければならない。リスニング指導に限らず、一般に教育の成果は試験等の特定の数値で表されることがあり、英語力も TOEIC、TOEFL、STEP(英検)等のスコアや等級で示されることがある。しかし、英語の英語のコミュニケーション能力全般はもちろん、リスニングについても現実の英語使用場面で求められる能力をすべて完全に測定しているとは言い難い。ましてや、教育の成果を測定することは一層困難であり、学習者のどの学習が技能向上に貢献したか、その因果関係の特定は困難を極める。総じて言えることは、教室での学習、学習者自身の自発的な独習、または学習を意識しない生活上の洋画、洋楽、外国人との英語のコミュニケーションなどを通じた無意識のインプットやインターアクションなどの相乗効果によって学習が促進されるものと考えられる。

では、具体的に指導して習得すべきリスニング力とは何であるか。そこで大いに参考になるのが、Richards(1987:167-169)が示すリスニング技能の構成要素である。Richardsは、リスニング力の構成要素を一般の会話でのリスニング力と講義を聞く際のリスニング力と分類し、前者を33の下部要素、後者を18の下部要素と分けている。(原文は付録1に掲載)これらの技能のうち主要なものは以下の7点に簡潔化し、聞き取りのプロセスを順に表すことができる。リスニングのプロセスに関しては、Anderson(1984)の3段階モデル(1.perception 2.parsing 3.utilization)とBrown(1995)の4段階モデル(1.identifying 2.searching 3.filing 4.using)があるが、本稿ではリスニングの7つの主要素を特定しプロセスの順に以下3段階に集約する：

ステップ1：音声認識(記憶力と認識)

- 1) ある一定の長さの英文を聞いてそれを短期記憶に保持(retain)できる能力
- 2) 語の切れ目(word boundaries)を識別できる能力

- 3) 異なる音を識別 (discriminate) し、ストレスの位置やリズム、イントネーション、弱音が認識 (recognize) でき、それが何を表しているかを理解できる能力

ステップ 2 : 文法的解析 (語順の把握と語間の関係の認識)

- 4) 品詞 (parts of speech)、語順 (word order)、文型パターン (syntactic patterns) を認識できる能力
- 5) 文法的省略 (elliptical forms of grammatical units) を認識できる能力

ステップ 3 : 内容把握 (語彙の再構築とメッセージの理解)

- 6) キーワード、決まり文句、会話標識 (discourse marker) や特定の話題でよく使われる語彙を認識できる能力
- 7) 背景知識に基づいて文脈から語句の意味を推量 (guess) する能力

2-1. ステップ 1

言語は鼓膜、耳小骨、蝸牛神経などを通じて優位脳のウェルニッケ領域に伝達され意味が理解がされる。特定の長さの発話 (utterance) を聞いて内容を理解するプロセスとして、聞いた途端に忘れてしまっただけではインプットされた情報を解読できない。これは瞬時に行われる認知プロセスであるが、インプットされた言語材料を解読する準備ができたインテイクの状態をまず作らなければならない。そのためには、ある程度の長さを聞いて忘れずに留めておく必要がある。この状態はシャドウイングを日頃からして聞いた発話を聴覚だけを頼りに復唱する訓練を重ねることで作りやすくなる。

次に、ポーズがなく繋がって聞こえる一定の長さの発話を聞いた時に単語や語句、決まり文句などの境目を認識できなければならない。聞いたことがない外国語を初めて聞いた時などにはどこが単語の切れ目であるかさえわからない状態であることが多い。その状態を 0 とし、聞いた発話のスクリプトを見て 100% 語の切れ目が理解できる状態を 10 とした場合に、学習者がどの段階にあるかを把握することが指導上大切である。

2-2. ステップ 2

単語の切れ目が認識できた後には、個々の単語自身の品詞とセンテンスの中における役割を認識できなければならない。品詞を認識し、語順の知識を活かして、語間の関係について文法的解析 (grammatical decoding) を行う。また、単語を超えたより大きな群動詞や成句、決まり文句などもっと大きな意味ある単位も認識し、主部と述部、修飾語句と被修飾語句、動詞と目的語、動詞と副詞、などの語句間の文法関係を理解しなければならない。また、書き言葉の文法だけでなく、自然な日常の会話における会話文法 (spoken grammar) の特徴を理解する必要がある。(I got it. (Do you) mind if I smoke here? 文法的省略や逆に余剰 (redundancy) などの特徴を理解していなければ戸惑ったり、会話では自然な省略であるにも拘わらず、発話者の教養を不適切に疑ってしまうこともあり得る。言語 (language) はもともと音声言語 (speech) であり、ゆえに言語の研究は音声の研究と不可分な関係にある (佐藤他、1996)。そのため、音声の研究は盛んであるが、書き言葉とは異なる会話文法に対してもっと注目すべきであるという指摘もある (M. Carthy & Carter, 2001)。Cullen & Kuo (2007) はイギリスで近年数年間の間に出版された ELT 関連のテキストで使用されている談話を詳細に調べ、自然な会話のディスコースの特徴をしっかりと記述し紹介しているテキストはまだまだ少ないと報告している。

文法的解析力を高める方法として、まず英文法を頭で完全に理解して他人に規則を説明できるだけの宣言的知識(declarative knowledge)をまず身に付けるように指導したい。英文の語順をしっかりと理解し、品詞の機能を理解し5文型を理解することが不可欠である。something needed for our healthのような後置修飾、関係節、仮定法、分詞構文などの文法の諸事項、さらに個々の語彙にまつわるルールである語法をしっかりと整理すること。そして、音声練習を通じて徐々に、単なる知識ではなく無意識に自動的に運用できる手続き的知識(procedural knowledge)にレベルアップさせたい。また、TOEIC や TOEFL のリスニングセクションの設問のようなものばかりを解くのではなく、実際に英文を書いて添削を受け修正を繰り返すことで、難解な冠詞や頻度の高自然な英文を構築する発信能力が高められ、自ずと解析する力も高まると考えられる。

2-3. ステップ3

文法的な解析が完了した後または進行中に、個々の語句の意味が前後、そして発話全体でどのようなメッセージを構築するか、論理的組み立てをしなければならない。もちろん、文法関係が理解されてから語彙が張り付き全体を理解するプロセスは一定ではなく、学習者の文法知識と語彙知識のバランスで異なる。文法、特に語順に関する知識が不足しているが語彙力が比較的ある学習者なら個々の語彙の意味をまず認識してから限定的な文法知識を当てはめて全体のメッセージを解読するプロセスを踏む。それに対して、文法の知識が豊富であるが、語彙不足の学習者は、特定の意味不明語句の品詞やセンテンスの中での機能は推測できるが意味がわからない。しかし、学習過程としては、後者はあとは辞書等の外部デバイスがあれば補足できる。それに対して前者はバラバラの意味を再構築することに困難を感じる。これは学習経験のない外国語の新聞を目の当たりにして、辞書片手に読もうとする行為に似ている。単語の意味がそれぞれわかってもそれらを論理的に繋げるための知識、いわば接着剤である文法知識の不足で十分にメッセージを理解できないだけでなく、時にはまったく反対の意味に取り違えてしまうことさえあるのである。

3：音声認識を困難にさせている音変化

自然な英語の会話での発話は、自然な速度で自然なストレス、イントネーション、ピッチ、リズムを有している。自然であるかどうかは英語の母語話者の主観である。それが第二言語話者には自然でないことが多い。早過ぎる、不明瞭、完全なセンテンスで話していない、など書き言葉から見るとあまりにも異なる諸相を帯びる。しかし、元来、話し言葉が先でそれから書き言葉が発達したものであり、母語の習得においても、聴解→発話→読解→作文という、感覚器官で言えば耳→口→目→手の順を踏んでいるにも拘わらず、日本の英語学習者は一般的に、目→手→耳→口と書き言葉が先で話し言葉が後に学習される。そのため、書き言葉の文法や語彙を中心に考えがちであり、会話の英語を何か亜流の崩れたものであるかのように見がちである。この考えをまず払拭しなければならない。Halliday (1994) が指摘するように書き言葉と比較して、話し言葉は、語彙的には平易であるが、文法的には節を多用し実に複雑であり、リスニングを困難にする要因のひとつになっていると考えられる。会話には会話独自の文法である spoken grammar があり、学校でもその実態はさまざまな研究で既に明らかになっているので早く教科書に反映させて授業でもっと体系的に教えることが急務である。

さて、リスニングを困難にされている発話の音声の特徴として、速度やポーズの入る頻度やタイミングなどの諸要素の中で、まず触れなければならないのは発話の音変化である。1) 短縮

(contraction)、2) 脱落(elision)、3) 連結(linking)、4) 同化(assimilation)、5) 強形と弱形(strong & weak form)、6) 抑揚(intonation)などの規則があるが、中でも、1、2、3、4は経済性の原理が働き、少しでも短時間に口の筋肉を使わずに相手に情報を伝達するために発達してきたものと考えられ、また発話の流暢さ(flucency)とリズム(rhythm)を維持するためにもある程度必要であるとされている。これらは話す速度が早くなるとより顕著となり聞き取り自身を難しくするだけでなく、聞いて意味を理解するまでに要するプロセスの時間も制限されてしまう。

3-1. 短縮(contraction)：よく一緒に使われる語は繋がって発音される法則

「主語と動詞や助動詞」及び「動詞+not」は会話では短縮されることが多い。ただし、意味を強調する場合などは短縮せずに You are beautiful. と言うことも多い。以下、短縮の例を挙げるが、ほとんどが代名詞と be 動詞・助動詞に関したものである：

1) 主語+動詞(助動詞)

- is ⇒ he's / she's / it's
- am ⇒ I'm
- are ⇒ you're / they're
- have ⇒ I've / we've / you've / they've
- has ⇒ he's / she's / it's
- will ⇒ I'll / we'll / you'll / he'll / she'll / it'll / they'll
- had ⇒ I'd / we'd / you'd / he'd / she'd / it'd / they'd
- would ⇒ I'd / we'd / you'd / he'd / she'd / it'd / they'd

2) 動詞(助動詞)の否定形

- be 動詞 ⇒ isn't / aren't / wasn't / weren't
- 助動詞 ⇒ can't / couldn't / won't / wouldn't / shouldn't / mustn't
- have ⇒ haven't / hasn't / hadn't

3) 助動詞+have

- 助動詞 ⇒ should've / could've / would've

一見してわかるように、「主語+be 動詞」の he's she's it's と「主語+has」の he's she's it's はまったくの同形である。前者の場合は限定詞、名詞、形容詞、現在分詞、過去分詞が続き、後者の場合は過去分詞のみが続く。意味の取り違いが生じる可能性があるのは、He was arrested. と He has arrested. が短縮で共に He's arrested. になった場合は、両者はまったく異なるメッセージを伝えることになる。彼は警官なのか犯人なのか。後者は他動詞であるから目的語の有無で判断できそうだが、省略されたり聞き取れなかったら、聞き手は arrested で文が終結していると判断し解析することも考えられる。

さらに、「主語+had」と「主語+would」はどの代名詞でもまったく同じ発音になる。前者の後には過去分詞、後者の後には動詞の原形が置かれるが、cut や put のような同形の動詞の場合は、He had cut it. と He would cut it. の区別がコンテキストがなければつなくなる。この他に同形ではないが、hasn't と hadn't, you're と your, he's と his は音声的に似ており聞き違いやすい。

さらに、短縮形の最たる例として I got to go now. における got to が挙げられる。これは、I have to ⇒ I have got to ⇒ I've got to ⇒ I got to と変化したものである。時には主語も省略され

た Got to go. (もう行かないと)も使われることがある。get to の過去形と思い「～に到着した」と誤解している学習者もいるかも知れない。

さらに、as soon as possible を ASAP と言ったり書いたりすることがあるが、これは音声上の短縮というより語彙の領域である。会話での頻度が高い because の短縮形の 'cause、さらに短縮した cuz/kəz/であろう。ただし、これらは一度理解すればその後の聞き取りの大きな障害となるとは思われない程度の変化である。

3-2. 脱落 (elision) : 後ろの子音が優先される

脱落とは「やや改まってゆっくりした発話では発音される母音や子音が、くだけた早い会話では発音されずに落ちてしまうこと」(竹林, 1987: 126)と定義できる。母音については、family の第二音節の曖昧音/ə/のようにアクセントのない位置にある時に脱落してしまう子音について、英語の初級者は I went to school. の went to の部分を「ウェントウトゥ」のように発音する例がある。もちろん、実際の会話で吃ったり、言い違えたり、長いポーズがあった場合などはしっかり発音されることはある。

英語では、以下の例にあるように語内や語間で同じ子音が続く重子音(double consonant)では、前の子音は聞こえにくい、と言うより最初から発音されていない：

/p/の脱落例	Don't drop pens.	/b/の脱落例	I will rub Betty's neck.
/t/の脱落例	I ate tuna for lunch.	/d/の脱落例	You should dance.
/k/の脱落例	Take kids to the room.	/g/の脱落例	Don't bring guns.
/f/の脱落例	He is a tough father	/v/の脱落例	I have very tall sisters.
/θ/の脱落例	That's my 5th thought.	/ð/の脱落例	Breathe the air.
/s/の脱落例	You should kiss Sue.	/z/の脱落例	We can surprise Zack.
/ʃ/の脱落例	He'll finish shoemaking.	/dʒ/の脱落例	Please judge Joe now.
/l/の脱落例	I feel lucky.	/m/の脱落例	I'm married.
/r/の脱落例	He may fire Rose.		

この前の子音が脱落する現象は、まったく同じ子音が重なる時にだけ起きるわけではない。bad timing(悪いタイミング)、top bath(腰湯)、back garden(裏庭)など破裂音で調音点が同じで有声音か無声音かだけの違いの子音が続く場合にも前の子音は消滅する。

/p/の脱落例	Don't tap Bob's head.	/b/の脱落例	Grab Peter's arm.
/t/の脱落例	I ate dinner at seven.	/d/の脱落例	I could try.
/k/の脱落例	Take Goro to the park.	/g/の脱落例	Can you bring Ken's car?

この種の脱落は調音が歯茎である/t/と/d/、両唇の/p/と/b/、軟口蓋の/k/と/g/の子音間でのみ起きるので、I talked loudly. のように同じ調音点同士でも調音形式の異なる/t/と/l/の隣接では前音の/t/は脱落しない。ただし、破裂音の/p//b//t//d//k//g/に限っては、他のいかなる子音が続く場合でも、日本語のつまった音のようなあたかも一瞬のポーズ(消音)が起きたような弱い音の印象を受ける声門閉鎖音に変化する声門化(glottalization)が起きる：

- /p/の声門化例 Drop that gun! /b/の声門化例 Don't rob his bank!
 /t/の声門化例 What went wrong? /d/の声門化例 I could play tennis.
 /k/の声門化例 Go back to the future. /g/の声門化例 Hang my socks there.

この中でも/t/と/d/については、語尾が/t/または/d/の発音の形容詞に -ly が付いて形成され語尾の発音が/tli/または/dli/と表記される flatly や repeatedly のような副詞、および He passed the test. や I have never played baseball. のように規則動詞の過去・過去分詞の語尾に表れることが非常に多いので注意が必要である。以下は大学英語教育学会(JACET)基本語リスト(2005年)の中に掲載されている語尾の発音が/tli/または/dli/と表記される副詞およびそれらの副詞の中での頻度順位に配列し、()内に頻度順位を示したものである。-ly の前の/t/や/d/はすべて声門化する。また、副詞ではないが形容詞の friendlyも頻度上位(8千語中1291位)にある。

表1 声門化が起きる語尾が -ly の副詞使用頻度表

1位: exactly	21位: definitely	41位: explicitly	61位: environmentally
2位: recently	22位: silently	42位: permanently	62位: impatiently
3位: completely	23位: correctly	43位: swiftly	63位: confidently
4位: immediately	24位: secondly	44位: privately	64位: patiently
5位: hardly	25位: instantly	45位: predominantly	65位: implicitly
6位: directly	26位: honestly	46位: efficiently	66位: brilliantly
7位: slightly	27位: lightly	47位: presently	67位: indefinitely
8位: unfortunately	28位: undoubtedly	48位: allegedly	68位: pleasantly
9位: absolutely	29位: currently	49位: reluctantly	69位: hurriedly
10位: rapidly	30位: significantly	50位: supposedly	70位: decidedly
11位: apparently	31位: subsequently	51位: unexpectedly	71位: moderately
12位: perfectly	32位: ultimately	52位: appropriately	72位: inherently
13位: frequently	33位: approximately	53位: lately	73位: intimately
14位: partly	34位: sufficiently	54位: politely	74位: remotely
15位: shortly	35位: consequently	55位: oddly	75位: awkwardly
16位: constantly	36位: broadly	56位: admittedly	76位: passionately
17位: differently	37位: reportedly	57位: markedly	77位: delicately
18位: tightly	38位: accurately	58位: mildly	
19位: deliberately	39位: importantly	59位: conveniently	
20位: desperately	40位: repeatedly	60位: profoundly	

規則動詞の過去・過去分詞については、動詞の目的語の語頭に/t/または/d/が続く場合には、動詞の語尾の/t/も/d/も完全に脱落し現在形か過去形か時制の区別が難しくなる。ゆえに、They talk to me. と They talked to me.、They talk directly to me. と They talked directly to me.、I play tennis. と I played tennis.、I play dodgeball. と I played dodgeball. は早く発音されるとコンテキストや時制を示唆する修飾語句がない限り時制の判断が困難になる。時制の取り違いはコミュニケーション上大きな問題になることが多いので指導上その点を強調するようにしたい。

さらに、声門化で子音が聞こえづらくなることでコミュニケーション上支障をきたす例として、be 動詞の否定の短縮形と can't の語尾である。Ur (1984: 18)が指摘するように、They aren't

going. や I can't come. のような否定の短縮形は大きな情報的価値を有するにも係らず、かすかな声門閉鎖音が生じ肯定か否定か英語の非母語話者は混乱することがある。特に、アメリカ英語の can't については、肯定形の can と聞き違いが起りやすい。一般に、can は弱く、can't はやや強めに発音される傾向にあるが、コンテキストによってはその反対の場合もある。この点、イギリス英語の発音は /kɑ:nt/ であり肯定形との相違が歴然としており比較的聞き取り違いは起きづらい。多くのアジア系、特にイギリス英語に馴染んできた広東語を母語とする香港人の学生が米国に住み始めてからこの問題を感じる人が多い。

また、代名詞 it も会話では頻出し声門化することが多く、イディオムや決まり文句の中に含まれているものも多い。これまでの研究で著者が特定した使用頻度の高い英語の日常会話の中で、声門化が起きる it を含む決まり文句および群動詞には以下がある：as it were / Don't let it get you down. / I needed it yesterday. / I'll never let it happen again. / make it happen / see to it that / take it for granted that ... / were it not for / When it comes to ..., / Wouldn't it be nice if ...? / Why is it that ...? / You could put it that way.

さらに、Go up. / I'm Bob. / He left. / I was surprised. / Look! / Let's hug. のように語尾や文尾の /p/ /b/ /t/ /d/ /k/ /g/ などの破裂音は氣息を伴わないために、かすかにしか聞こえなかったり、聞き手の耳にまったく届かなくなることが多い。これを発音しない、または聞こえないと指導し、「ゴーアツ」「アムボツ」「ヒーレフツ」「アイワズサプライズツ」「ルツ」「レッツハツ」のように声門化したカタカナ表記は不正確である。

以上のは前後の音関係によるものだが、この他に歴史的な過程による音の脱落がある。典型的なのはイギリス英語における語尾の /r/ 音の脱落である。Fire! はアメリカ英語では語尾の /r/ をしっかりと反り舌 (retroflex) にするが、イギリス英語ではまったく発音しない。これは話し手がアメリカ人かイギリス人か見分ける時の重要な手がかりになる。元来、イギリスがアメリカを植民地にして時代までは反り舌で発音していたが、その後、英語の本場であるイギリスでは発音されなくなる一方で、アメリカではしっかりと今日まで維持され続けた。このように本国で言語が進化し消えた発音や廃れた語彙が、遠隔地で伝えられた現地でその後保存されている例は他言語でも多く見られる現象である。また、歴史的過程による脱落の他の例としては、talk などに見られる /l/ 音の脱落が挙げられる。さらに、日本語の会話で助詞が省略されて「昼ラーメン食べたよ」と言ってもごく自然に聞こえるように、英語でも Ur (1984: 18) が指摘するように、Where are you going? を Where you going? と are を省略する言い方が受け入れられている。

3-3. 連結 (Linking) : 母音は子音を引き付ける

早い発話では前の単語の語尾の子音と次の単語の語頭の母音が繋がることが多い。far away は強調する時には語間にポーズを置いて発音されることがあるが、/r/ と /ə/ が連結して /rə/ となる。また、単独ではほとんど聞き取れないぐらい弱く発音される語尾の子音が目立つようになることが多い。例えば、it の /t/ は I like it. のように後ろに何も無い時はかすかにしか聞こえない。さらに後ろに語頭が子音で始まる語が来るとさらに聞こえづらくなる傾向にある。例) I like it very much.

反対に、母音で始まる語が続くと母音と連結し「子音+母音」の音節として目立つようになる。例えば、That's the bus I'm supposed to take. における take の /k/ はかすかにしか聞こえなかったりまったく聞き取れないことも多いが、take it になると、/k/ は後に続く it の母音 /i/ に連結し聞

こえやすくなる。さらに、take it out のような場合には、it は前の単語の語尾の/k/に連結するだけでなく、続く out の語頭の母音とも連結し前後に連結するために、目立つというよりも /it/ 自体が消滅してしまう。また、後続の母音に吸収されなくても、Keep it to yourself. のように /t/ や /d/ が続く場合も /it/ は消滅する。

また、以下は著者がこれまでの研究で特定した使用頻度の高い英語の日常会話の中で、前の子音と後の母音や子音の /t/ に挟まれているために消滅する it を含む決まり文句および群動詞には以下がある：Believe it or not / to put it another way / Can we start it over? / Isn't it amazing that ...? / Cut it out! / Do whatever it takes. / give it a try / Give it time. / Let put it in another way. / Don't let it discourage you. / Don't take it out on me! / I can't express it in words. / I'll think it over. / Keep it down, please. / Leave it to me. / Let's call it a day. / make it to / Stick it out! / Take it easy. / You can leave it to me. / Is it okay for me to ...?

3-4. 同化 (assimilation) : 前後の音が影響し似た音 (類似化) になる

これには、後ろの音が前の音に影響を与えて変化させる「逆行同化 (regressive assimilation)」、前の音が後ろの音に影響を与えて変化させる「進行同化 (progressive assimilation)」、前後双方の音から新しい第3の音が誕生する「相互同化 (coalescent assimilation)」がある。

逆行同化の例としては、seven buses の発音において、seven の歯茎鼻音の /n/ の発音が buses の両唇破裂音の /b/ の影響を受けて両唇鼻音 /m/ と発音される。同様に ten plates の発音において、ten の歯茎破裂音の /n/ の発音が plates の両唇破裂音の /p/ の影響を受けて両唇鼻音である /m/ と発音される。/n/ は /b/ や /p/ のように上下の唇を付けて破裂させて出す両唇破裂音の音の前では同じ調音点である上下唇を重ね合わせ口を閉じたまま鼻から息を吐き出して発音する両唇鼻音の /m/ になる現象がある。同じ調音器官を使う方が音の移行がスムーズで少ないエネルギーで発音できるためである。

進行同化の例としては、lunch stop (長距離バスの食事停車) の発音において、stop の /s/ の発音が lunch の /tʃ/ の影響を受けて /ʃ/ と発音される例がある。しかし、同化しないポジションでも、普段から strawberry や Sri Lanka の語頭の /s/ を /ʃ/ と発音する英語の母語話者は少なくない。

相互同化の例には主に2つのタイプがある。ひとつは Thank you. を「サンキュー」、Have you... を「ハヴュー」とカタカナで書き表すように、子音を発音する場合に、それと同時に前舌面が硬口蓋に向かって持ち上げられ、その子音に硬口蓋半母音 (palatal semivowel) の /j/ または /i/ のような音色が加わる硬口蓋化 (palatalization) である。これには語彙の使用頻度上 you と you が付く例が圧倒的に多い。日本語の「x+y」のような「キュ」「シュ」「ジュ」「チュ」「ジユ」「ニユ」「ヒユ」「ミュ」「リュ」などに変化する。実際に発音したほうが楽であることがわかる。音変化の指導にカタカタを用いることの有用性は自然発話の音声に近くさせる能力を向上させるという報告 (Shizuka, 1995) もあり、学習者には以下のようにカタカナを交えて提示する：

「ヴユ」：Have <u>you</u> been to Europe?	「チュ」：I'll <u>get you</u> some coffee.
「キュ」：Thank <u>you</u> .	「ニユ」：I'll put it <u>on your</u> desk.
「シュ」：I <u>miss you</u> .	「ピユ」：I can <u>help you</u> .
「ジユ」：Could <u>you</u> tell me your name?	「リュ」：I <u>tell you</u> what.
「デュ」：I'll go <u>with you</u> .	

相互同化のもうひとつのタイプは、want to が「ワナ」、going to が「ゴナ」のように発音される例である。want to は want および to の子音/t/が消滅して、want の子音/n/が to の子音の曖昧音と結び付き/nə/という音が生まれる現象である。他に、going to → gonna / got to → gotta / have to → hafta / has to → hasta がある。また、going to の否定形の not gonna は「ナッゴナ」と聞こえ目立つ音である。

さらに、同化の一種として、letter は「レラ」、water は「ワラ」に聞こえる、/t/が母音に挟まれ、しかも直後にアクセントがない場合に弾音または打音の t (flapped t) に変わり、日本語のラ行のような音に変わる有声化 (vocalization) がある。これは聞き取り上、他の音との識別上の混乱はあまりなく聞き慣れておけば問題はない。ただ、発話時にラ行に意識的に変えて言うように指導する必要はまったくない。また、/t/の後に/l/が続く場合には、/t/は舌尖でなく舌の側面で破裂させることで同じくラ行のような音になる側面破裂 (lateral plosive) が起きて、little は「リロー」のような音に聞こえることがある。

3-5. 強形と弱形 (strong & weak form)

英語は強弱がはっきりしており、同じ強さの母音または子音+母音からなるモーラを単位とする日本語とは音韻知覚がまったく異なる。当然、強く発音される部分は聞き取りやすく弱く発音される部分は聞き取りにくい。また、dictionary や government のような音節の多いスペルの長い知っている語彙であれば多少早く発音されたり不明瞭であっても聞き取れるが、tap のように一音節からなる単語はセンテンスの中では音の波の狭間にかき消され聞き漏らしやすい。しかも、一般的に英語では日常会話で頻度の高いものほど一音節の単語が多い。リスニング学習で音声聞いた後でスクリプトで確認した際に、知っているはずの簡単な単語が聞き取れていないことが多々ある。

3-5-1. 文法的分類で考える情報量で最初から決まっている強形と弱形

一般的に強く発音されるか弱く発音されるかは、その語彙の持つ情報量や価値による。品詞で言えば、大きな情報量を持つと考えられている名詞、形容詞、動詞などの内容語は強く発音される。それに対して、情報量よりも語と語の間の文法的関係を構築するために用いられる代名詞、冠詞、前置詞、不定詞の to などは機能語は弱く発音される。

不定冠詞 a an は I saw a man near the building. において、特別男性の数がひとりであったことを強調する必要が特にない場合には、曖昧音であるが、強調する時には/ei/とゆっくり発音されることがある。

3-5-2. コンテキストでの情動的価値で決まる強形と弱形

実際の会話は内容語も機能語も情動的な価値が高い時は目立たせるために強く発音する。例えば、前置詞も誤解を避けるために、Please put the book ON the desk NOT UNDER the desk. のように情動的価値のある場合は強く発音される。しかし、頻度としては機能語はやはり弱く発音されることの方が圧倒的に多く聞きづらいことが多い。

また、A : _____ B : I went to the park yesterday. の対話において、Where did you go yesterday? と聞かれたなら the park の部分を強く、Who went to the park yesterday? と聞かれたなら I の部分を強く、When did you go to the park? と聞かれたなら yesterday

の部分強く発音することになっているが、それはどの部分の情報を強調するかの違いであって、I went to the park yesterday. というセンテンス全体の「私はきのう公園に行った」というメッセージは同じである。

また、一連の談話の中で既出の情報(given information)は弱形、新出の情報(new information)は強形になるのが一般的である。しかし、世界の非母語話者の英語(nonnative varieties of English)の中には、シンガポール英語(SE)のように既出の情報を弱形にしないものもある。Low (2006)はシンガポール人とイギリス人のそれぞれ男女5ずつの朗読文を分析し、シンガポール人の英語は既出の情報も新出の情報も語気の強弱での区別をしないことを実証した。この点に関する他の非母語話者の英語の特性についての研究は乏しいが、学習者は母語話者の音変化に慣れるだけでなく、英語のさらなる世界的普及に伴い、そのような音変化の規則のない英語の変種に関する知識も望まれる。

3-5-3. 慣用的な意味か文字通りの意味かで決まる強形と弱形

同一のセンテンスの中で相手に一番伝えるために強くする部分が変わってもセンテンス全体のメッセージ自身は変わらない。しかし、中にはその位置の違いでセンテンス全体がまったく異なるメッセージを伝える例もある。例えば、Don't mention it. は文字通りの意味は「それを言うな」という禁止の命令文であるが、その場合は Don't の部分を強く発音する。もし、Thank you. と言われて答える「どういたしまして」の意味で使う時には mention の部分を強く発音する。このように強形の位置次第で文字通りの意味と慣用的な意味のいずれかを表す例として以下がある：

文字通りの意味

DON'T mention it. (それは言わないで)
 HERE it is. (ここにあります)
 THAT'S it. (その通りです)
 YOU said it. (あなたが言ったんです)
 HOLD on. (しっかり掴んでいて)

慣用的な意味

Don't MENTION it. (どういたしまして)
 Here IT IS. (はいどうぞ)
 That's IT. (以上です)
 You SAID it. (その通り)
 Hold ON. (ちょっと待って)

3-5-4. 助動詞のどちらの意味を表わすかで決まる強形と弱形

can (could)、may (might)、should、must などの助動詞は本来「能力(～できる)」「許可(～してもよい)」「義務(～すべきだ)」「強制(～しなくてはならない)」という対人的な機能を有するが、同時にいずれの助動詞も「～であり得る」「～かも知れない」「～のはずである」「～に違いない」という何かを判断したり推量する際の確信の度合いを示す。例えば、He may not come here. は文字だけ見ると「彼はここに来ることは許されない」「彼はここに来ないかも知れない」の二つのまったく異なる意味に解釈できる。前者の本来の意味を表わす場合には not の部分が強く発音され He may NOT come. と禁止の文になる。後者の推量の意味では may の部分が強く発音され He MAY not come. と弱い確信を示す文になる。

3-5-5. 動名詞か現在分詞かで決まる強形と弱形

I avoid irritating people. は offending が avoid の目的語である動名詞なのか、people を修飾する現在分詞の形容詞的用法として用いられているのかで異なる解釈ができる。前者ならば「私

は人を苛立たせないようにしている」、後者なら「私は苛立つ人 avoider を避けるようにしている」と解釈できる。前者の意味で使う場合は I AVOID irritating people. と avoid を強く発音し、後者の意味では I avoid IRRITATING people. と irritating を強調し、かつ irritating people は意味的にひとつの固まりになるので一気に発音される。同様に、I hate yelling people. は強調する位置によって異なる意味を表わす。

3-5-6. 感覚動詞で表される感触（印象）が事実かで決まる強形と弱形

He looks rich. は「彼は金持ちのようだ」と見た目の印象を表わし、通常は He looks RICH. と形容詞の部分と比較的強く発音する。しかし、それは見た目だけで事実異なることを強調する場合には He LOOKS rich. と looks が特別強く発音されることがある。以下、感触通りか、それとも偽の感覚と疑っているかを動詞を強く発音するか形容詞を強く発音するか大文字で示す：

- 1) 視覚：He looks IMPATIENT. (気が短そうだ)
- 2) 聴覚：She SOUNDS intelligent. (あたかも頭が良さそうには見えるが)
- 3) 嗅覚：The food smells DELICIOUS. (美味しそう)
- 4) 味覚：This drink TASTES alcoholic. (あたかもアルコールが含まれる味はするが)
- 5) 触覚：This cloth FEELS like silk. (あたかも絹を思わせるような感触があるが)

3-5-7. 本来の仮定の意味か丁寧表現として使うかで決まる強形と弱形

現在の英語では I want to ... (～したい) のより丁寧な言い方として定着している I would like to ... (できれば～したく存じます) は本来は仮定法過去である、非現実を表わす表現が丁寧表現としても定着している。しかし、元来の仮定法の用法が活かされることもある。例えば、I would like to meet you. は「できればあなたにお会いしたく存じます」の意味で使うならば meet の部分を強く発音して I would like to MEET you. になる。しかし、ぜひ会いたいのだかどうしても会うことができない無念を相手に伝える時には like の部分を強調し I would LIKE to meet you. と言う。

英語の強形と弱形に聞き慣れるには、日頃から音読やシャドウイングを行い、強弱を意識しながら発音することが大切である。ネイティブスピーカーの朗読の CD を正確にまねるつもりで強弱をはっきりとやや大きめに発音するように指導したい。しかし、実際の会話のディスコースにおいて、どこを強調しているかがそれほどはっきりしなかったり不明瞭であることが多々ある。

3-6. 抑揚 (intonation)

抑揚とは文の一部や文尾のピッチを上げたり下げたりすることである。Trask (1996: 84) は、抑揚の機能を次の 3 つにまとめている：1) 句や節などの文法的な境目を示す、2) 平序文か疑問文かを示す、3) 驚き、皮肉、怒りなどの態度を示す。

英語では Are you Japanese? のような Yes-No question では文尾を上昇調にし、What's your name? などの疑問詞で始まる疑問文では文尾を下降調にするのが一般的である。また、前者が疑問文の形をとらずに You are Japanese? と言っても文尾を上昇調にすることで相手に疑問文であることが伝わる。さらに、Would you like tea or coffee? のようにどちらか選択する疑問文では、tea の部分で上昇させ coffee の部分で下降させる。これらは抑揚の基本となる知識であるが、世

界で話されている実際の英語の中にはそうとは限らない方言もある。例えば、米国のハワイ州では一般的に Yes-No question でも文尾を下降調にする。Are you Japanese? Do you like tennis? のように疑問文の語順で聞かれれば下降調でも一瞬惑うことがあってもすぐに質問されていることに気づくはずである。しかし、ハワイでは You are Japanese? や You like tennis? のような平叙文でも文尾を下降調にする。聞いたままで直訳すれば「あなたは日本人である」「あなたはテニスが好きである」と淡々と自分のことを紹介されているように感じる。

また、Would you like A or B? の文では A と B のどちらの方がよいか好みを聞く場合には A を上昇させ、ややポーズを置いてから B を下降させるが、or が選択の「か」ではなく例として「お茶かコーヒーでも召しあがりませんか」という意味で言う時は、A ではなく B の部分までポーズを置かず一気に発して文尾を上昇させる：

Would you like/tea\or coffee? (お茶やコーヒーか)

Would you like/tea or coffee? (お茶かコーヒーでも)

さらに、付加疑問文は一般的に日本語の助詞「ね」に相当し、疑問の念が強く相手に何かを確認したい場合には、This is for lunch, isn't it?(これは昼食用なんですよね?) では文尾の抑揚を上昇調にするが、疑問の念が弱く、すなわち事実は承知しつつ相手を説得したり説き伏せるように自己主張する際は下降調にする。上記の例文の場合は「これが昼食用だってことぐらいはあなたにだってわかるだろう? どうなんだ?」のような意味を表わすこともある。

また、異なったイントネーションを使うことによって、話し手の感情や発話のニュアンスの違いが表現される。日本語のような感情や心的態度を表わす「ね」「よ」「さ」などの細かな感情やニュアンスを表わす助詞に相当する語彙が英語にはない分だけ、英語のイントネーションの果たす役割は重要である。さらに、アメリカ英語の音調が平板で単調な感じであるのに対して、イギリス英語の音調は上昇と下降に富む(岡野 1990) ことを学習者に周知させるべきである。

4：音声認識を困難にされている類音語

上記の音変化が起これなくても学習者が聞き取り上困難を極めるのが、音の似た単語の識別である。それは同じ品詞であろうがなかろうが、音声としてほぼ同時にインプットされる会話の談話では混乱を引き起こすことがある。英語を教える身である者は教える以前から学習者としての経験から会話では識別が困難な語句の組み合わせは承知であろうが、確認の意味を込めて実際に日本語を母語とする大学生を対象に調査を行った。

4-1. 日本人大学生を対象とした調査で確認された区別しづらい語

日本語が母語である大学生(1、2年生)が指摘した聞き違いやすい語彙ペアを特定してもらった。夏休み課題として自分自身の英語学習上で実際に識別を困難と感じたり聞き違えた経験のある5つのペアまたはグループをあげ、著者にメールで送付する形式で66名から計534例を収集した。中には5ペア以上を挙げた学生もいた。表2には3名以上が共通して挙げた上位47のミニマルペアまたはそれに準ずる類似した単語のペアが挙げられている。なお、この中にはペアではなく3つまたは4つのグループで回答したものも含まれている。また、上位には rise/ráiz/と raise/réiz/を挙げた回答者が6名いたが、この質問の主旨をよく理解せずに紛らわしい自動詞と他動詞を選んだものと判断し排除した。他にも数例あった誤解と思われる回答をすべて排除した全回答データは付録2-1と2-2に掲載した。()には回答者数が示され、ペアの表記はアルファベッ

ト順となっている。

表 2 日本人大学生が選んだ識別困難語彙ペアランキング

1位	light/right	(15)	6位	for/four	(5)	8位	die/dye	(3)
1位	meat/meet	(15)	6位	road/load	(5)	8位	feel/fill	(3)
2位	right/write	(11)	6位	walk/work	(5)	8位	fly/fry	(3)
2位	sea/see	(11)	6位	ball/bowl	(4)	8位	free/flea	(3)
3位	hard/heard	(9)	7位	heard/heart	(4)	8位	knight/night	(3)
3位	hear/here	(9)	7位	lack/luck	(4)	8位	laugh/rough	(3)
3位	lead/read	(9)	7位	mail/male	(4)	8位	law/raw	(3)
3位	sink/thing	(9)	7位	mouse/mouth	(4)	8位	low/row	(3)
4位	desert/dessert	(7)	7位	staff/stuff	(4)	8位	pass/past	(3)
4位	law/low	(7)	7位	she/sea	(4)	8位	read/red	(3)
4位	long/wrong	(7)	7位	too/two	(4)	8位	rock/lock	(3)
5位	heart/hurt	(6)	7位	allow/arrow	(3)	8位	son/sun	(3)
5位	lice/rice	(6)	8位	bat/but	(3)	8位	to/two	(3)
5位	peace/piece	(6)	8位	boat/vote	(3)	8位	wait/weight	(3)
5位	play/pray	(6)	8位	bath/bus	(3)	8位	word/world	(3)
5位	buy/by	(5)	8位	caught/coat	(3)			

ペア以外に挙げられた3つ以上の単語の組み合わせについては、right/light/write (10)、bat/but/bad (1)、buy/by/bye (2)、sea/see/she (2)、road/load/lord (1)、to/too/two (2)、berry/bury/very (1)、clash/crash/crush (1)、caught/coat/court (1)、claim/climb/crime (1)、feather/weather/whether (1)、love/rub/rob (2)、plenty/purity/pretty (1)、quiet/quite/quit (1)、role/roll/rule (1)、law/low/raw (1)、shoot/short/shot (1)、saw/sew/sow (1)、さらに5単語の law/low/role/roll/row (1) もあった。

収集したデータには、meet と meat、right と write などの同音異義語、および light と right、hard と heard などのミニマルペアが含まれている。ただし、学習上で実際に識別を困難と感じたり聞き違えた経験のあると指示したものの、授業で教師が聞き取りで注意すべき典型例やその他参考書等で得た知識をそのまま回答した可能性もある。例えば、lice/rice を6名の学生が挙げているが、これなど従来から日本人英語教師がよく授業で取り上げる典型例である。参校書等で取り上げられることはあっても、ニュースや実際の使用場面において、lice を聞いたり使ったりする機会は今日どのくらいあるか疑問である。ただし、発話の場面において、日本語の「ライス」をそのまま発音する際に /l/ の調音をして lice のように相手に聞こえてしまうことは十分に考えられる。ただし、しらみと米はあまりにも使用されるコンテキストが異なるために取り違いられて誤解されることは少ないだろうが、失笑され得る。

一般的な印象として、hear/here のような品詞が異なるペアは、light/right のように双方とも形容詞として使われることもあるペアから比較すると混乱は少ないように思われるかも知れない。それは、品詞が異なればセンテンス中での位置も異なり、単語の語順から推測できるからだが、完全なセンテンスの形では発話されず、節を中心に発話される口語の場合には品詞の特定が困難になることがある。また、語句やセンテンスの切れ目も認識できないレベルの学習者には、聞い

た英文の品詞のなどを即時に分析し理解するのは困難である。ゆえに、品詞が違うからと言って聞き違いが起り難くなるとは一概には言えない。

4-2. 英語の紛らわしい語句

英語の中の区別が紛らわしい単語には、right (正しい)と right (右)などのまったく同じ音で別の語彙として認識される同音異義語、crash/kræʃ/(墜落する)と crush/krʌʃ/(ぺちゃんこになる)のように一部の音節だけが異なるミニマルペア claim/kléim/(～を主張する)と crime/kráim/(犯罪)など、複数の音が異なっても同じように聞こえるタイプの3つが挙げられる。本稿では、これらの3つのタイプを総じて「類音語」と呼ぶこととする。

4-2-1. 同音異義語 (homonym)

第1の同音異義語は日本語よりはるかに英語の場合は少ないためにほんの数例気をつけていれば問題はない。ただし、ある程度内容を理解している場合に、その意味上の区別はつくものの、低い理解の段階では意味の取り違いは大いにあり得る。例えば、Simon & Garfunkle の Bridge Over Troubled Water (明日に架ける橋)の歌詞にある I'm sailing right behind. は「真後ろ」という意味であるが、「右後ろ」と理解する学習者も少なくない。また、Do I have to turn right, right?(右に曲らなければならないでしょ?)のように、「右に」という副詞の right と「～でしょ?」とタグとして使用されている形容詞の right がひとつの発話の中で繰り返し使われたり隣接することもある。表2にあるように、同音異義語が上位に多数ランキングされている。

4-2-2. ミニマルペア (minimal pair)

staff/stæf/と stuff/stʌf/または light/láit/と right/ráit/などのミニマルペアを苦手とする学生が多いことも調査で明らかになった。日本語母語話者の耳には同じ語彙項目として認識されてしまう語彙が英語には少なくない。これは、日本語母語話者の優位の脳のウェルニック領域の音声認識マップが母語である日本語を基礎に形成されているためである。

英語は音声の基本単位である音素 44 あるのに対して、日本語には 22 しかない。英語母語話者がはっきり異なる音として認識できる音も日本語母語話者には同じ音に聞こえたり、多少異なる感じてもそれは発話者の個人差やその時の微妙な言い違いとしか扱われずに大まかに同じ音の中の変種である異音と位置付けられているものが多い。母音も子音 (/l/と/r/、/b/と/v/、/t/と/θ/)も英語では音素であるものが日本語では異音であるものが多い。

英語より音素の少ない日本語では、英語をカタカタで表わす場合に、2つの異なるミニマルペアの単語も同じ表記になることがある。子音では、/l/も/r/のラ行表記が代表的である。日本語のラ行音は、ローマ字では ra, ri, ru, re, ro のように r で表記されるが英語のようなそり舌の/r/でなく舌先で歯茎から硬口蓋をはじいて出すフラップの/r/であり、また個人差や同一人物で位置により/l/に近い音色を帯びる場合もある。free(自由な)も flea(ノミ)も同じく「フリー」と表記される。そのため、不要品を交換する集会である「フリーマーケット」を free market (自由市場)をカタカナで表したものであると思い込んでいる日本人は少なくないだろう。

日本語の「ア」の音は、標準語でも名古屋弁のアとエの間のような cat/kǽt/の母音のような音でもアに変わりなく、他の語になってしまうことはない。しかし、英語には日本語のアの異音であるものだけで曖昧音の長音も入れると合計で5つの「ア」(/æ//ʌ//ə//ɑ//ɑ:/)があり、英語

では全部音素となり異なる語彙項目を形成する。これは色彩の分類に似ており、純白もアイボリーも「白」と片付けてしまう言語がある一方で、細かく分けてこだわりを持つ言語が世界には混在する。

その他、母音と子音の双方をからめた取り違い例もある。例えば、fast [fæst] と first [fɔ:rst] の例である。このため「ファーストフード」を fast food ではなく、first food と思い込んでいる日本人もいる。筆者は実際に 1980 年代後半に日本のファーストフードの店内の表記物に first food が印刷されているのを確認したことがある。first の「始め/初め」というイメージが調理の早さとさほど違和感がないためかそのまま誤解され続ける懸念がある。このように、カタカナ語はその元の外国語の単語をしっかりと確認しておかなければ聞き取りのみならず発話においても混乱が生じ、誤解を招く恐れがある。

また英語は子音が多いために高周波音域(1500~5000)が中心となるのに対して、日本語は低周波音域(500~1500 ヘルツ)で世界の諸言語の中でも最も低い周波数を持つ言語であるという事実を根拠に、日本人が英語を話すのに苦勞する一因は、普段聴きなれない周波数帯の音の聞き分けが難しいからであるとフランスの耳鼻咽喉科医のトマティス(1994)は主張している。彼はヘッドホンから流れてくる音響ソフトや「電子耳」という音を処理する音声周波数濾過機を使い、人工的に作った低周波から高周波数の電子音を一定期間聞き続けることで、英国人の胎児が体内で聞く高周波音、リズム、イントネーションに耳を慣れさせ、モーツァルトの曲などで耳小骨の小さなじん帯を鍛えて聴こえる音の幅を広げていくトマティス・メソッドを提唱している。

音素が大雑把に分類されている言語は外国人には話しやすく多少発音のまずくても通じてしまう特性がある。ゆえに、日本語は外国人には比較的話しやすい、発音しやすい言語である。しかし、音声を比較的大雑把に分類している日本語を母語に持つ者にとっては英語の発話も聴解も容易ではない。そのため、この日英の音素と異音の相違に着目して集中的にミニマルペアを聞き復唱する方法が有効であるとされてきた。しかし、従来のような単に単語の羅列では単調でしかもコンテキストが伴わないために飽きやすいという難点が指摘されてきた。

4-2-3. 複数の音が異なるが識別しづらい語

外国語学習者は何もミニマルペアだけを言い違えたり、聞き違えたりするわけではない。自然の速度の発話や文中の中に出現する単語の中には、claim と crime のように母音と子音の 2 箇所が異なっても同一の語彙項目として誤認してしまうことも珍しくない。bad と but、short と shot、law と role、law と row、career と Korea、clash と crush、heard と heart、hard と hurt の間で聞き違いや言い違いがよく起きる。ミニマルペアと類語ペアの枠を超えて比較すると、heard、heart、hard、hurt の 4 つの単語はいずれの単語間で聞き違えてしまう可能性がある。聞き違いは自然の会話の中のコンテキストを手がかりにして、聞き手はある程度文脈外の語彙が含まれる可能性を排除することで取り違いを最小限化することもできる。

調査の結果および筆者の研究で明らかになった類音語のグループの例は以下である：bat/but/bad; berry/bury/very; caught/coat/court; claim/climb/crime; clash/crash/crush; feather/weather/whether; right/light/write; road/load/lord; role/roll/rule; love/rub/rob; law/low/role/roll/row; law/low/raw; plenty/purity/pretty; saw/sew/sow; sea/see/she; shoot/short/shot; to/too/two

また、単語を超えた長い語群(word group)でもまったく他の熟語や連語、決まり文句等に聞き

違えてしまうことがある。これは特に洋楽の歌詞などで顕著な現象で、いわゆる「空耳」などと言われている現象である。Louis Armstrong の名曲 What A Wonderful World の一節に the dark sacred night があるが、これは the dark say good night に聞こえなくもない。また、アバの The Winner Takes It All にある Tell me does she kiss は Tell me Toshi kiss と聞こえる。

5：具体的な学習指導法

1)短縮、2)脱落、3)連結、4)同化、5)強形と弱形、6)抑揚、7)類音語を克服するためのタスクをそれぞれ紹介する。いずれも、まずはポイントを含めた例文の聞き取り、音読、反復、暗唱、シャドウイング、ディクテーションを励行し相違点に慣れる、次に単文を聞いて聞き取った語句を選ばせるタスクで力試しを行う、さらに、対話文や文章を聞いてコンテキストの中で特定の音声の認識を行う、という3つのステップからなるタスクを提唱する。このような音変化の指導の効果について、Eshima and Sato(1990)は一定期間市販の教材を用いて指導し効果があったと報告している。

5-1. 暗唱用例文

聞き取れるためにはまず発音ができなければならない。例文の作成に当たっては以下を留意した。

- 1) 暗記しやすいようになるべく短いセンテンスにする。
- 2) 状況が目浮かぶような具体的な情景を描写したセンテンスとする。
- 3) 類音語で多品詞で使われるものはなるべく同じ品詞で統一する。
- 4) 類音語は語尾変化のないように動詞は現在形にする。
- 5) 類音語は調音点の移動を素早くできる位置に配置する。

5-1-1. 短縮

- [] I'm not sure, but I think it's up to you.
- [] I'd like to know which cities you've visited before.
- [] They'd soon find how long it'd take to complete the project.
- [] It'll be rainy tommorrow, so you shouldn't go out.
- [] He should've been home yesterday because it was Sunday.
- [] Did you know what you could've have done to us? Be more careful!
- [] If I hadn't said that to him, he would've come to the party.
- [] Sorry, but I've got to pick up my friend at the airport.
- [] Wouldn't it be astonishing that she'd like to quit the company?
- [] I finally went to the restarurant I hadn't gone before.

5-1-2. 脱落（声門化を含む）

- [] I went to school yesterday. (脱落)
- [] I ate eight tuna sandwiches. (脱落)
- [] I have very important meetings. (脱落/声門化)
- [] Don't tap Beth's head. (脱落)
- [] I wrote Dick a letter. (脱落)

- [] Bring kitchen towels now. (脱落)
- [] Drop your weapons now. (脱落/声門化)
- [] I can't tell you that. (脱落)
- [] I could try and you could help me. (脱落/声門化)
- [] Go up. (無氣息)
- [] Go out. (無氣息)
- [] Go back to your room. (声門化)
- [] He repeatedly changed his mind. (声門化/声門化)
- [] You're absolutely, right. (声門化)
- [] I don't know exactly what happened to him. (脱落/声門化/声門化/脱落)
- [] They always talk directly to me. (声門化/声門化)
- [] They talked directly to me yesterday. (脱落/声門化)
- [] I got a surprise. (脱落なし)
- [] I got surprised. (声門化/無氣息)

5 - 1 - 3 . 連結

- [] Does she kiss you like I kiss you?
- [] Can we start it over?
- [] Do whatever it takes. Stick it out!
- [] Cut it out! Don't take it out on me!
- [] Don't let it discourage you. Take it easy.
- [] Give it time. Let's call it a day.
- [] Keep it down, please. I'm reading.
- [] Were it not for water, no one could survive.
- [] You can leave it to me. I'll think it over.
- [] Why is it that you can't make it to the party tonight?

5 - 1 - 4 . 同化

- [] Thank you so much. (硬口蓋化)
- [] Have you been to China? (硬口蓋化)
- [] I missed you so much while you're out of town. (硬口蓋化)
- [] I'll get you some coffee if you have time. (硬口蓋化)
- [] I'll go with you when I've got time. (硬口蓋化)
- [] I got to write a letter to my family. (有声化)
- [] Could you tell me the little girl's name? (側面破裂)
- [] I wanna thank you for coming over here today. (有声化)
- [] I can help you anytime you gonna change the situation. (硬口蓋化)
- [] There are ten plates on your desk. (逆行同化/硬口蓋化)

5-1-5. 強形と弱形 (大文字を強く発音)

- [] A long time ago, A man visited an old village on the island.
- [] Do you want THIS pen or THAT pen?
- [] You should avoid IRRITATING people. Just leave them alone.
- [] I always try to AVOID irritating people. They are really nasty.
- [] DON'T mention it. It's me who decide what to do.
- [] Don't MENTION it. It's my pleasure.
- [] It's ready. Here IT IS.
- [] It's not over there. HERE it is.
- [] THAT'S it. You're absolutely right.
- [] I just don't like him. That's IT.
- [] You SAID it. I really think so too.
- [] Hold ON. I'll be with you in a moment.
- [] HOLD on and push it slowly. Easy, easy.
- [] YOU said it. It's your fault.
- [] He MAY not come to the party tonight because he's been busy these days.
- [] The activist has been arrested home, so he may NOT go out.
- [] She SOUNDS stupid but she is actually pretending not to be intelligent.
- [] This coffee TASTES like a real coffee but it is an instant coffee.
- [] This chewing gum tastes like SOUR.
- [] I would like to MEET you as soon as possible
- [] I would LIKE to meet you if you were here.

5-1-6. 抑揚

- [] Do you play/tennis?
- [] You play/tennis?
- [] You play/tennis\or baseball?
- [] You play/tennis or baseball?
- [] What do you\play?
- [] Do you play/tennis\or baseball?
- [] Do you play/tennis or baseball?
- [] Which do you\play,/tennis\or baseball?
- [] You play tennis,/don't you?
- [] You don't play tennis,\do you?

5-1-7. 類音語

調査で明らかになり表3にまとめた類音語を含んだセンテンスを順位順に以下掲載する。

ペア

- [] light/right: Look at the light on your right.
- [] meat/meet: The quality of this meat meets our standards.

- [] right/write: Write your name on the right.
- [] sea/see: I can see the sea from my room.
- [] hard/heard: I heard he works very hard.
- [] hear/here: I hear you are here today.
- [] lead/read: I will lead them to read more books.
- [] sink/thing: Nothing will sink in this lake.
- [] desert/dessert: The dessert is very common the desert.
- [] law/low: The law bans low wages.
- [] long/wrong: I said something wrong and now I long for yesterday.
- [] heart/hurt: His words hurt my heart.
- [] lice/rice: The lice looks like a rice in the distance.
- [] peace/piece: I wrote a message of peace in a piece of paper.
- [] play/pray: I always pray before I play baseball.
- [] raise/rise: I must rise to ask to raise my wages.
- [] buy/by: I must buy milk by 3 p.m.
- [] for/four: I bought four books for my kids.
- [] road/load: He loaded something into the truck on the road.
- [] walk/work: He always walk to work.
- [] ball/bowl: There are many meat balls in the bowl.
- [] heard/heart: I heard he developed a heart disease.
- [] lack/luck: He failed because of the lack of luck.
- [] mail/male: I got a mail from a male student.
- [] mouse/mouth: The cat catches a mouse every month.
- [] staff/stuff: All staffs took away their stuff from the office.
- [] she/sea: She went to the sea.
- [] too/two: I need two pieces too.
- [] arrow/allou: An poisoned arrow is not allowed in the bout.
- [] boat/vote: He used the boat to go to vote.
- [] bat/but: A bat may be scary but looks cute to me.
- [] bath/bus: There is a bathroom in the bus.
- [] caught/coat: He caught a cold after he took off his coat.
- [] die/dye: He dyled his hair before he died.
- [] feel/fill: Fill in the document when you feel ready.
- [] fly/fry: No one wishes to fry a fly to eat.
- [] free/flea: I go to the flea market when I am free.
- [] knight/night: The knight went out at night.
- [] laugh/rough: He may laugh at my rough driving.
- [] aw/raw: The law bans the sale of raw fish.
- [] low/row: The law bans working two days in a row.
- [] read/red: He read the red-covered book.

- [] rock/lock: I will put the rock in the box and lock it.
 [] son/sun: My son is playing in the sun now.
 [] to/two: I want to buy two cakes.
 [] wait/weight: You must wait for me to lose weight.
 [] word/world: There is no word to express her beauty in the world.

グループ

- [] bat/but/bad: The quality of the bat is bad but low in price.
 [] buy/by/bye: By the way, you must say good bye after you buy something.
 [] berry/bury/very: Please bury the berry very quickly.
 [] caught/coat/court: The man in a coat was caught by police before the court.
 [] claim/climb/crime: He claims he will climb the mountain and commit a crime.
 [] clash/crash/crush: They clashed, the plane crashed and the body crushed.
 [] feather/weather/whether: A feather shows whether the weather will be fine or not.
 [] law/low/raw: The law bans the sale of raw fish at low prices.
 [] law/low/role/roll/row: The law says his role is to roll cakes in a row at the low cost.
 [] love/rub/rob: The rock I love and rub everyday can be robbed someday.
 [] plenty/purity/pretty: A plenty of pretty flowers show their purity in the garden.
 [] right/light/write: I will write with my right hand near the light.
 [] road/load/lord: The lord has a heavy load to walk on the road.
 [] role/roll/rule: His role is to keep a rule and take a roll in class.
 [] saw/sew/sow: I saw a man who tried to sow something but sew nothing.
 [] sea/see/she: She will see the sea tomorrow.
 [] shoot/short/shot: The short hunter tried to shoot a bear but shot a rabbit.
 [] to/too/two: I want to buy two books, too.

その他の例文は付録3に掲載してある。

6. 音声認識のためのタスク

聞く前から見ただけで正解がわかってしまうようなことがないように、同じ品詞の組み合わせを考え、文脈上も実際に聞いてみなければいづれの話でも正解になるような選択肢の作成をした。

6-1. 短縮

例文に空欄を一箇所ずつ設け、英文を聞かせて聞き取った語句を()に記入させる。

- [] I'm not sure, but I think(1: _____) up to you.
 [] I'd like to know which cities (2: _____) visited before.
 [] (3: _____) soon find how long (4: _____) take to complete the project.

- [] (5: _____) be rainy tomorrow, so you (6: _____) make go out.
 [] He (7: _____) been home yesterday because it was Sunday.
 [] Did you know what you (8: _____) have done to us? Be more careful!
 [] If I (9: _____) said that to him, he would've come to the party.
 [] Sorry, but (10: _____) got to pick up my friend at the airport.
 [] (11: _____) it be astonishing that (12: _____)like to quit the company?
 [] I finally went to the restarurant I (13: _____) gone before.

answers⇒1: it's 2: you've 3: They'd 4: it'd 5: It'll 6: shouldn't 7: should've 8: could've
 9: hadn't 10: I've 11: Wouldn't 12: she'd 13: hadn't

6 - 2 . 脱落

以下例文を聞かせ下線部の音が脱落しているか声門化しているかを選ばせる。

- [] I went to school yesterday. (脱落・声門化)
 [] I ate eight tuna sandwiches. (脱落・声門化)
 [] Don't tap Beth's head. (脱落・声門化)
 [] I wrote Dick a letter. (脱落・声門化)
 [] Bring kitchen towels now. (脱落・声門化)
 [] I can tell you that. (脱落・声門化)
 [] I can't tell you that. (脱落・声門化)
 [] Go back to your room. (脱落・声門化)
 [] You're absolutely, right. (脱落・声門化)
 [] They talked directly to me yesterday. (脱落・声門化)

answers⇒ 1:脱落 2:脱落 3:脱落 4:脱落 5:脱落 6:声門化 7:脱落
 8:声門化 9:声門化 10:脱落

6 - 3 . 連結

例文に空欄を一箇所ずつ設け、英文を聞かせて聞き取った語句を()に記入させる。

- [] (1: _____), she is an actress.
 [] (2: _____)?
 [] Do whatever it takes. (3: _____)!
 [] Cut it out! (4: _____)!
 [] (5: _____)
 [] Give it time. (6: _____)
 [] (7: _____)
 [] (8: _____), no one could survive.
 [] You can leave it to me. (9: _____)
 [] (10: _____) you can't make it to the party tonight?

answers⇒1: Believe it or not 2: Can we start it over? 3: Stick it out! 4: Don't take it out on me!
5: Don't let it discourage you. 6: Let's call it a day. 7: Keep it down, please. 8: Were it not
for water 9: I'll think it over. 10: Why is it that

6-4. 同化

以下全文を何度も聞かせてディクテーションさせる。

[] _____
[] _____
[] _____
[] _____
[] _____
[] _____
[] _____
[] _____
[] _____
[] _____

answers⇒1: Thank you so much. 2: Have you been to China? 3: I missed you so much while you're
out of town. 4: I'll get you some coffee if you have time. 5: I'll go with you when I've got
time. 6: I got to write a letter to my family. 7: Could you tell me the little girl's name?
8: I wanna thank you for coming over here today. 9: I can help you anytime you gonna
change the situation. 10: There are ten plates on your desk.

6-5. 強形と弱形

強弱の位置によって二通りの解釈が可能なペアをそれぞれ異なる位置を強く発音し聞かせ、そ
れによって表される和訳を選択させる。

- [] You should avoid irritating people. (苛立つ人／人を苛立たすこと)
[] You should avoid irritating people. (苛立つ人／人を苛立たすこと)
[] Don't mention it. (それは言わないで／どういたしまして)
[] Don't mention it. (それは言わないで／どういたしまして)
[] Here it is. (ここにあります／はいどうぞ)
[] Here it is. (ここにあります／はいどうぞ)
[] That's it. (その通り／以上です)
[] That's it. (その通り／以上です)
[] Hold on. (しっかり持って／待って)
[] Hold on. (しっかり持って／待って)
[] You said it. (あなたが言ったんですよ／その通りです)
[] You said it. (あなたが言ったんですよ／その通りです)
[] He may not go out. (外出が許されていない／外出しないかも知れない)
[] He may not go out. (外出が許されていない／外出しないかも知れない)

- [] She sounds stupid. (馬鹿みたい／馬鹿のように思われがちだ)
- [] She sounds stupid. (馬鹿みたい／馬鹿のように思われがちだ)
- [] This coffee taste like a real coffee. (～の味がする／～のような味がする)
- [] This coffee taste like a real coffee. (～の味がする／～のような味がする)
- [] I would like to meet you. (できれば～したい／ぜひ～したい)
- [] I would like to meet you. (できれば～したい／ぜひ～したい)

6-6. 抑揚

抑揚の付け方によって二通りの解釈が可能なペアをそれぞれ異なる抑揚の付け方をして発音し聞かせ、それによって表わされる和訳を選択させる。

- [] Do you play tennis or baseball?
(あなたはテニスをしますか野球をしますか／テニスとか野球とかをしますか)
- [] Do you play tennis or baseball?
(あなたはテニスをしますか野球をしますか／テニスとか野球とかをしますか)
- [] You play tennis, don't you?
(あなたはテニスをしますよね／あなたはテニスをするんですか)
- [] You play tennis, don't you?
(あなたはテニスをしますよね／あなたはテニスをするんですか)
- [] You don't play tennis, do you?
(あなたはテニスをしませんよね／あなたはテニスをしないんですか)
- [] You don't play tennis, do you?
(あなたはテニスをしませんよね／あなたはテニスをしないんですか)

6-7. 類音語

類音語のペアまたはグループを()に選択肢として入れ、実際に発音されている語を聞いて選択させる形式をまず行い、慣れてきたら完全な空欄を設けて記入させる。聞かなく選択できないことがないように、同一の品詞のものだけを使用し、さらにいずれの語であっても意味の通る例文を提示する。

- [] When are you going to take a (bath / bus)?
- [] How do you (feel / fill)?
- [] You will (lead / read) them well.
- [] Is that white stuff a (lice / rice)?
- [] You have no (light / right).
- [] Which (mouse / month) do you like best?
- [] What did you (play / pray) in the room?
- [] How long did you (walk / work) yesterday?
- [] Do you like this (word / world)?
- [] They (clashed / crashed / crushed) last night.
- [] Is this the rock he (loved / rubbed / robbed)?

- [] Have you seen the (lord / load / road)?
[] Can you explain about the (role / rule / roll)?

また同じ例文を使って、ミニマルペアの表記されていない方の語を故意に発音して聞かせ、下線部の語が正しく発音されていれば「正しい」を○で囲みし、正しくなければ「正しくない」を○で囲ませて正しい単語を書かせるタスクもできる。この際、9箇所中5箇所が間違っているなどのように示すとタスクは容易になる。

- [] When are you going to take a bath? (正しい・正しくない⇒ _____)
[] How do you feel? (正しい・正しくない⇒ _____)
[] You will lead them well. (正しい・正しくない⇒ _____)
[] Is that white stuff a lice? (正しい・正しくない⇒ _____)
[] You have no light. (正しい・正しくない⇒ _____)
[] Which mouse do you like best? (正しい・正しくない⇒ _____)
[] What did you play in the room? (正しい・正しくない⇒ _____)
[] How long did you walk yesterday? (正しい・正しくない⇒ _____)
[] Do you like this word? (正しい・正しくない⇒ _____)

さらに進んだレベルとして、語句選択ではなく完全な空欄として対話でのコンテキストを手がかりに完成させるタスクを提示する。

- A: Bob, did you take a (1: _____)?
B: Yes, I just took it.
A: How do you (2: _____) ?
B: Very good. By the way, how is your new boss? Does he (3: _____) you well?
A: Yes, definitely. He can (4: _____) my mind.
B: Oh, can he? Are you going to ask him not to make you work so hard?
A: No way! I have no (5: _____) to say that. But I don't want to work like a (6: _____).
B: Absolutely. I will (7: _____) for you.
A: Are you (8: _____) back to the office now?
A: Yes. I have a (9: _____) with the boss to make our (10: _____) a better place.

answers: 1: bath 2: feel 3: lead 4: read 5: right 6: mouse 7: pray 8: walking 9: word 10: world

7. まとめ

本稿でのこれまでの論述は以下 21 項目にまとめられる：

- 1) 英語の学習の中でリスニングは最大の難関であり、英語の音が聞き取れない、他の語彙と聞き違える、聞き取れても意味がわからないの3つの問題を抱えている。
- 2) 音声を聞き取る認識力、語間の関係を理解できる文法力、さらに個々の単語の意味と関連し

た知識の3つを合わせた総体がリスニング力である。

- 3) リスニングは、音声認識という物理現象と内容把握という心理現象からなるという事実をまずしっかりと認識し、いま行っている学習内容が、どちらの現象と関連し、どの技能を高めるためのものであるかを認識しておくことが望ましい。
- 4) 音声認識は、物を見るために目蓋を開ける行為と同じく、あくまでも内容把握の前段階であり、特定の音声聞き取っただけで一喜一憂してはいけない。
- 5) リスニングの指導を適切に行うためには、まずは学習者に身に付けさせるべきリスニング力とは何であるかを明確に教師は認識していなければならない。
- 6) リスニングのプロセスは、音声認識、文法的解析、内容把握の3つからなる。
- 7) 母語の習得においても、聴解→発話→読解→作文という、感覚器官で言えば、耳→口→目→手の順を踏んでいるにも拘わらず、日本の英語学習者は、目→手→耳→口と書き言葉が先で話し言葉が後に学習されたため、書き言葉の文法や語彙を中心に考え、会話の英語を歪流の崩れたものと考えられがちである。
- 8) 書き言葉と比較して、話し言葉は、語彙的には平易であるが、文法的には実に複雑であり、会話には会話独自の文法である *spoken grammar* がある。
- 9) 音声的特徴として、発話の流暢さとリズムを維持するために短縮、脱落、連結、同化、強形と弱形、抑揚などの規則がある。
- 10) 「主語と動詞や助動詞」及び「動詞+not」は会話では短縮されることが多い。「主語+be 動詞」の *he's she's it's* と「主語+has」の *he's she's it's* はまったくの同形である。「主語+had」と「主語+would」はどの代名詞でもまったく同じ発音になる。また、*hasn't* と *hadn't*, *you're* と *your*, *he's* と *his* と聞き違えやすい。また *I go to go now.* における *got to* や *because* の短縮形の *'cause*、さらに短縮した *cuz* も会話での使用頻度が非常に高い。
- 11) 英語では、語内や語間で同じ子音が続く重子音では、前の子音は脱落する。また、破裂音で調音点が同じで有声音か無声音かだけの違いの子音が続く場合にも前の子音は消滅する。それ以外の子音が続く場合は前の破裂音に限って声門閉鎖音に変化する声門化が起きる。この中でも /t/ と /d/ については、語尾に *-ly* が付いて発音が /tli/ または /dli/ と表記される副詞や規則動詞の過去・過去分詞の語尾に表れることが非常に多いので注意が必要である。また、語尾や文尾の破裂音は氣息を伴わないために、かすかにしか聞こえなかったり、聞き手の耳にまったく届かなくなることが多い。さらに、イギリス英語では、語尾の /r/ は脱落する。
- 12) 早い発話では前の単語の語尾の子音と次の単語の語頭の母音が繋がる人が多い。反対に、母音で始まる語が続くと母音と連結し「子音+母音」の音節として目立つ。it は子音と母音に挟まれると連結するために、消滅してしまう。/g/ なら「ギツ」*hug it*、/z/ なら「ズィ」*buzz it* とカタカナを明示すると効果的である。
- 13) *Thank you.* を「サンキュー」とカタカナで書き表すように、子音を発音する場合に、それと同時に前舌面が硬口蓋に向かって持ち上げられ、その子音に硬口蓋半母音の /j/ または /i/ のような音色が加わる硬口蓋化が起きる。また *want to* が「ワナ」、*going to* が「ゴナ」のように発音されたり、/t/ が母音に挟まれ、しかも直後にアクセントがない場合に有声化し日本語のラ行音に似た音に変わる。
- 14) 英語の強弱には、文法的分類上情報量で最初から決まっている、コンテキストでの情報的価値で決まる、慣用的な意味か文字通りの意味かで決まる、助動詞のどちらの意味を表すかで

決まる、動名詞か現在分詞かで決まる、感覚動詞で表される感触か事実かで決まる、本来の仮定の意味か丁寧表現として使うかで決まるものがある。

- 15) 抑揚とは文尾の音低を上げたり下げたりするで主張や疑問を表わすなどの文法的な機能と怒り・戸惑い・皮肉などの話者の態度を表す機能を果たす。米国のハワイ州では一般的に Yes-No question でも文尾の抑揚は上昇調になる。付加疑問文は、疑問の念が強く相手に何かを確認したい場合には、文尾が上昇調になるが、疑問の念が弱く相手を説得したり説き伏せるように自己主張する際は下降調になる。
- 16) 音変化が起こらなくても音の似た「類音語」の識別も学習者には難しい。日本人大学生指摘した聞き違いの起しやすい語彙ペアには、meet と meat、right と write などの同音異義語、および light と right、hard と heard などのミニマルペアが含まれている。また、claim と crime のように母音と子音の 2 箇所が異なっても同じ単語であると誤認することがある。また、単語を超えた長い語群でもまったく他の熟語や連語、決まり文句等に聞き違えてしまうことがある。
- 17) 英語母語話者がはっきり異なる音として認識できる音も日本語母語話者には同じ音に聞こえたり、発話者の個人差やその時の微妙な言い違いとしか扱われずに大まかに同じ音の中の変種である異音と位置付けられているものが多い。
- 18) 英語は子音が多いために高周波音域が中心となるのに対して、日本語は低周波音域で世界の諸言語の中でも最も低い周波数を持つ言語であるために、日本語母語話者にとって、英語の、普段聞き慣れない周波数帯の音の聞き分けが難しい。
- 19) 単語を超えた長い語群 (word group) でもまったく他の熟語や連語、決まり文句等に聞き違えてしまうことがある。これは特に洋楽の歌詞などで顕著な現象で、いわゆる「空耳」などと言われている現象である。
- 20) 短縮、脱落、連結、同化、強形と弱形、抑揚、類音語の克服のための暗記用例文の作成では、暗記しやすいようになるべく短く、状況が目浮かぶような具体的な情景を描写をし、類音語の例文は同じ品詞で統一し、類音語の例文は動詞は現在形になるようにし、類音語同士は近くに配置するようにする。
- 21) 音声認識のためのタスクの作成に当たっては、聞く前から見ただけで正解がわかってしまうようなことがないように、同じ品詞の組み合わせで、文脈上も実際に聞いてみなければいずれの語でも正解になるような選択肢の作成をする。

REFERENCES

- Anderson, T. (1985). *Cognitive Psychology And Its Implications, 2nd Ed.* New York: Freeman.
- Brown, G. (1995). The testing of second language comprehension. Unpublished Ph.D. Dissertation. Lancaster University of Lancaster.
- Crystal, D. (1997). *A Dictionary of Linguistics and Phonetics: 4th Edition.* Cambridge: Blackwell Publishers.
- Cullen, R., & Kuo, I. (2007). Spoken grammar and ELT course materials: a missing link? *TESOL Quarterly*, 41 (2), 361-386.
- Eshima, T and Sato, Y. (1990). The sound change centred instruction: a study on the improvement of English listening ability. *Language Laboratory*, 27, 117-131.
- Halliday, M. (1994). *An Introduction to Functional Grammar: Second Edition.* London: Arnold.
- Kobayashi, T. (1996). Response to Japanese college EFL learners' difficulties in SLA. *Hokkai Gakuen University Jimbun Ronshu*, 7, 119-195.
- Low, L. (2006). A cross-varietal comparison of deaccenting and given information: implications for international intelligibility and pronunciation teaching. *TESOL Quarterly*, 40 (4), 739-761.
- M Carthy, M., & Carter, R. (2001). Ten criteria for spoken grammar. In E. Hinkel & S. Fotos (Eds.), *New perspectives on grammar in second language classrooms* (pp.51-75). Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum.
- Richards, J. & Schmidt, R. (2002). *Longman Dictionary of Language Teaching & Applied Linguistics: 3rd Edition.* London: Longman.
- Richards, J. (1987). Listening comprehension: approach, design, procedure. In M. Long & J. Richards (Eds), *Methodology in TESOL: A Book of Readings*, 161-176. New York: Newbury House Publishers.
- Shizuka, T. (1995). An experimental study on utilizing katakana transcription for developing learner ability to decode rapid casual speech. *JACET Bulletin*, 26, 95-112.
- Trask, R. (1996). *A Dictionary of Phonetics and Phonology.* New York: Routledge.
- Ur, P. (1984). *Teaching Listening Comprehension.* Cambridge: Cambridge University Press.

参考文献

- 相澤一美他 (2005) 『JACET 8000 英単語』東京：桐原書店
- 岡野哲 (1990) 『英語学の基本』東京：篠崎書林
- 佐藤寧他 (1996) 『現代の英語音声学』東京：金星堂
- 竹林滋 (1987) 『英語音声学入門』東京：大修館書店
- 毎日新聞朝刊 1994年11月20日(日曜日)「語学習得方は“音慣れ”が第一」
- 読売新聞夕刊 1994年2月25日(金曜日)「聴力鍛え語学力アップ電子音を利用、仏で開発」

付録 1

Richards (1987: 167-169) が示すリスニング技能の構成要素

Micro-Skills: Conversational Listening

1. Ability to retain chunks of language of different lengths for short periods
2. Ability to discriminate among the distinctive sounds of the target language
3. Ability to recognize the stress patterns of words
4. Ability to recognize the rhythmic structure of English
5. Ability to recognize the functions of stress and intonation to signal the information structure of utterances
6. Ability to identify words in stressed and unstressed positions
7. Ability to recognize reduced forms of words
8. Ability to distinguish words boundaries
9. Ability to recognize typical word order patterns in the target language
10. Ability to recognize vocabulary used in core conversational topics
11. Ability to detect key words (i.e., those which identify topics and propositions)
12. Ability to guess the meanings of words from the contexts in which they occur
13. Ability to recognize grammatical word classes (parts of speech)
14. Ability to recognize major syntactic patterns and devices
15. Ability to recognize cohesive devices in spoken discourse
16. Ability to recognize elliptical forms of grammatical units and sentences
17. Ability to detect sentence constituents
18. Ability to distinguish between major and minor constituents
19. Ability to detect meanings expressed in differing grammatical forms/sentence types (i.e., that a particular meaning may be expressed in different ways)
20. Ability to recognize the communicative functions of utterances, according to situations, participants, goals
21. Ability to reconstruct or infer situations, goals, participants, goals
22. Ability to use real world knowledge and experience to work out purposes, goals, settings, procedures
23. Ability to predict outcomes from events described
24. Ability to infer links and connections between events
25. Ability to deduce causes and effects from events
26. Ability to distinguish between literal and implied meanings
27. Ability to identify and reconstruct topics and coherent structure from ongoing discourse involving two or more speakers
28. Ability to recognize markers of coherence in discourse, and to detect such relations, as main idea, supporting idea, given information, new information, generalization, exemplification
29. Ability to process speech at different rates
30. Ability to process speech containing pauses, errors, corrections
31. Ability to make use of facial, paralinguistic, and other clues to work out meanings
32. Ability to adjust listening strategies to different kinds of listener purposes or goals
33. Ability to signal comprehension or lack of comprehension, verbally and non-verbally

Micro-Skills: Academic Listening (Listening to Lectures)

1. Ability to identify purpose and scope of lecture
2. Ability to identify topic of lecture and follow topic development
3. Ability to identify relationships among units within discourse (e.g., major ideas, generalizations, hypotheses, supporting ideas, examples)
4. Ability to identify role of discourse markers in signaling structure of a lecture
5. Ability to infer relationships (e.g., cause, effect, conclusion)
6. Ability to recognize key lexical items related to subject/topic
7. Ability to deduce meanings of words from context
8. Ability to recognize markers of cohesion
9. Ability to recognize function of intonation to signal information structure
10. Ability to detect attitude of speaker toward subject matter
11. Ability to follow different modes of lecturing: spoken, audio, audio-visual
12. Ability to follow lecture despite differences in accent and speed
13. Familiarity with different styles of lecturing: formal, conversational, read, unplanned
14. Familiarity with different registers: written versus colloquial
15. Ability to recognize irrelevant matter: jokes, digressions, meanderings
16. Ability to recognize functions of non-verbal cues as markers of emphasis and attitude
17. Knowledge of classroom conventions (e.g., turn taking, clarification requests)
18. Ability to recognize instructional/learner tasks

付録 2 - 1

日本人大学生が識別を困難であると回答した語

abandon/abundant (1)	face/faith (1)	lain/lie (1)
adapt/adopt (2)	fare/fair (2)	lain/rain (1)
affect/effect (2)	farm/firm (1)	lane/rain (1)
air/heir (1)	fax/facts (1)	lap/rap (1)
aisle/isle (1)	feet/feat/fit (1)	last/rust (1)
alone/along (2)	feather/weather/whether (1)	launch/lunch (1)
angry/agree (1)	fifteen/fifty (1)	law/low (6)
appeal/appear (1)	fill/feel (3)	law/low/raw (1)
around/along (1)	fire/hire (1)	law/raw (1)
arrow/allow (3)	first/fast (1)	lawn/loan (1)
assent/ascent (1)	flash/flush (1)	lay/lie (3)
assign/design (1)	flea/free (1)	lay/lie/lain (1)
ate/eight (1)	flower/flour (2)	lay/ray (1)
ball/bowl (1)	fly/fry (1)	leave/lead/read (1)
bare/bear (1)	foam/form (1)	leave/live (1)
bass/bath (1)	fool/full (2)	lend/read (1)
bat/but (6)	for/four (3)	lend/rent (1)
bath/birth (1)	found/found (1)	let/red (1)
bath/bus (1)	four/for (3)	lice/rice (1)
beal/bare (1)	free/flea (2)	lie/ride (1)
bet/bed (1)	frill/thrill (1)	light/light/right (2)
black/block (1)	fry/fly (1)	light/write (1)
bled/bleed (1)	fun/fan (2)	ling/wring (1)
blow/brow (1)	glass/grass (1)	lip/rip (1)
blue/blew (2)	glow/grow (1)	listen/lesson (1)
boat/bought (1)	grand/ground (1)	loan/lawn (1)
boat/vote (2)	grass/glass (1)	loose/lose (1)
bow/vow (1)	grate/great (1)	love/rob/rub (1)
bowl/ball (4)	guest/guessed (1)	low/row (1)
bred/breed (1)	half/have (1)	low/row/law (1)
breeze/breathe (1)	hall/whole (1)	loyal/royal (1)
bright/blind (1)	hard/had/heard/heart (1)	mad/mud (1)
bury/very (1)	hard/heard (1)	mail/male (4)
buy/by (5)	hard/heard/heart (1)	mall/mole (1)
buy/by/bye (2)	hat/fat (2)	meat/meet (13)
career/Korea (2)	hat/hot/hut (1)	month/mouth (1)
cat/cut (2)	heal/heel (1)	mouth/mouse (4)
cell/sell (1)	hear/here (9)	needs/knees (1)
claim/climb (1)	hear/year (1)	night/knight (3)
claim/climb/crime (1)	heard/hard (6)	normal/no more (1)
clash/crash/crush (1)	heard/hard/heart/hurt (1)	one/won (1)
close/cloth (2)	heart/heard (2)	or/for (1)
cloud/could (1)	heart/hurt (6)	order/older (1)
coat/caught (2)	heat/hit (1)	our/hour (1)
coat/court (2)	heel/heel (1)	low/law/row/role/roll (1)
coat/court/caught (1)	high/hide (1)	pace/space (1)
collect/correct (1)	hit/face (1)	pass/path (1)
copy/coffee (1)	holder/folder (1)	past/passed (1)
core/call (1)	hole/hall/whole/fall/hold (1)	past/pass (3)
could/good (1)	hole/whole (2)	peace/piece (4)
crash/crush (1)	horse/hose (1)	pear/pair (1)
cross/cloth (1)	hot/hat (1)	picture/pitcher (1)
curve/carve (1)	I'll/I'd (1)	piece/peace (2)
dear/deer (2)	keep/key (1)	plain/plane
desert/dessert (7)	knew/new (1)	play/pray (6)
die/dye (2)	knight/night (1)	please/freeze (2)
disease/decease (1)	know/no (1)	pool/pull (1)
disk/desk (1)	know/now (1)	pretty/purity/plenty (1)
drug/drag (1)	lace/race (1)	
dye/die (1)	lack/luck/rack (1)	
exciting/excited (1)	lack/luck (3)	

付録 2 - 2

日本人大学生が識別を困難であると回答した語

principal/principle (1)	seen/scene (1)	though/through (1)
quit/quite (1)	sell/cell (2)	thought/saw (1)
quite/quiet/quit (1)	seniors/serious (1)	three/tree (1)
rake/lake (1)	sew/saw (1)	threw/through (1)
rare/rear (1)	shake/sake (1)	through/threw (1)
raw/law/low (1)	she/sea (2)	throw/slow (2)
ray/lay (1)	sheriff/sherry (1)	throw/though (1)
read/lead (9)	shine/sign (1)	tip/chip (1)
read/led/red (1)	ship/sheep (1)	to/two (1)
read/read/red (1)	shipping/shopping (1)	to/too/two (2)
read/red (2)	shoot/shot (1)	took/look (1)
red/led (1)	shore/sure (1)	top/tap (1)
rend/lend (3)	shot/short/shoot (1)	travel/trouble (1)
respectful/respectable (1)	sick/thick (1)	treat/tree (1)
rest/less (1)	sight/site (2)	tree/tree (1)
rice/lice (6)	sign/assign (1)	two/too (2)
right/light/write (1)	sing/thing (1)	value/volume (1)
right/light (15)	would/world (1)	vary/very (1)
right/light/write (9)	wound/wound (1)	very/berry/bury (1)
right/write (2)	wrong/long (9)	vote/boat (1)
rise/rice (1)	some/thumb (1)	wait/weight (3)
road/load (2)	son/sun (3)	walk/work (5)
road/load/lord (1)	sow/sew/saw (1)	want to/won to (1)
rock/lock (3)	spill/spoil (1)	war/were (1)
role/roll (2)	staff/stuff (4)	warm/worm (1)
role/roll/rule (1)	star/stare (1)	week/weak (3)
root/route (2)	steel/steal (1)	weigh/way (1)
rough/laugh (3)	stole/stool (1)	where/wear (1)
rub/rob/love (1)	suite/sweet (1)	where/wherever (1)
sad/said (2)	sum/some (1)	which/witch (1)
sake/shake (2)	sun/son (1)	wind/wind (1)
sang/sung (1)	sweet/sweat (1)	woman/women (1)
saw/saw (1)	swing/sing (1)	wonder/wander (1)
saw/see (1)	taff/stuff (1)	won't/want (1)
saw/so (1)	tail/tell (4)	wood/would (1)
say/stay (1)	tale/tail (1)	word/world (3)
sea/see (9)	tear/tear (1)	would/was (1)
sea/see/she (2)	theirs/these (1)	year/ear (7)
seat/sheet (1)	there/their (1)	you're/your (1)
seem/see (1)	thing/think (1)	

付録 3

その他の類音語識別のための例文

- [] The base of the vase is broken.
- [] At the curve, curb the speed.
- [] On the whole, people are careful not fall in the hole at the hall.
- [] Don't long for anything wrong.
- [] Don't tap the top of the bottle.
- [] He bought an old boat yesterday.
- [] He gave his lovers rubbers.
- [] He is going to seek his career in Korea.
- [] He likes to brew Blue Mountain coffee.
- [] He likes to eat the liver of river fish.
- [] He put some food into his hood.
- [] He lacks knowledge and racks his brain.
- [] He stood up from the chair to cheer her up.
- [] He traveled to the troubled area.
- [] He used his lips to rip the paper.
- [] He was fired but hired soon.
- [] He prays to play baseball well.
- [] He will throw slow balls.
- [] I was asked personal questions at the personnel department.
- [] I have some dogs and ducks at home.
- [] I saw a girl with a gul at the sea.
- [] I will run to the LAN control room to learn something.
- [] It's a sin to expose your shins at the scene.
- [] I wish to pick up some stones at the peak.
- [] Many people flee to the free world.
- [] Press the bottom button.
- [] Put some pepper on the paper.
- [] Rain fell on the lane.
- [] Read their mind, well to lead them well.
- [] She bought raw fish at a low price.
- [] She decided to close her clothes shop.
- [] She dropped his wine glass on the grass.
- [] She sailed to the market for a big sale.
- [] She sold salt at the market after the assault.
- [] She won't want anything but her love.
- [] She was impressed by the sight at the site but didn't sigh.
- [] Some Japanese speak Javanese.
- [] The Aegean Sea is not in Asia but in Europe.
- [] The angry men agreed that they looked ugly.
- [] Tighten your shoe lace in the race.
- [] The threw a ball into the bowl.
- [] The clown put a crown on his head.
- [] The club members ate crabs after practice.
- [] We need more cooperation from the corporation.
- [] The drug user dragged his leg to the truck.
- [] The farm is run by a firm.
- [] He was sacked and sucked his finger from frustration.
- [] The lust will last long.
- [] A mad man threw the mat into the mud.
- [] The mouse opened his mouth.
- [] The plane crashed and crushed into piece in the clash.
- [] You should take a bottle in the battle.
- [] The truck got out of track out of luck.
- [] The siren made people silent.
- [] The way he discusses things disgusts me.
- [] The widow opened the window.
- [] A strong wind blew the blue carpet away.
- [] There is a bath on the bus.
- [] I want every fan to have fun at the party.
- [] They need to call for more coal.
- [] This is my best vest.
- [] The color of his collar has faded.
- [] You are not allowed to speak a lot or aloud here.
- [] You can't pass the path with the purse.
- [] She sits on the sheet and shits.
- [] You'll get one buck back.